

近畿地方整備局
和歌山河川国道事務所

資料配付

配布日時

平成19年04月18日
14時00分

件名

国道26号紀の川大橋橋梁拡幅工事現場周辺で発生した地下水の噴出に対する防災ドクターによる現地調査結果について

概要

4月18日(水)9:20よりおこなわれた防災ドクター(学識経験者)の現地調査の結果についてお知らせします。

取り扱い

配布場所

和歌山県政記者クラブ
和歌山県地方新聞記者クラブ
和歌山県政放送記者クラブ

問合せ先

国土交通省 近畿地方整備局
和歌山河川国道事務所 副所長 木村 是一
TEL 073-424-2471(内線205)

国道26号紀の川大橋橋梁拡幅工事周辺における 地下水噴出に対する現地調査結果について

本日、道路防災ドクター(京都大学大学院 大西有三教授)に現地調査をしていただき、今後の対応方針等について以下のご助言を頂いた。

- 工事箇所周辺で発生している水と空気の噴出を抑止するということから、応急対策として地中に滞留していると思われる空気を抜く工法は有効と考えられる。
- 調査や応急対策の実施にあたっては、以下の点に留意して進めることが必要と考えられる。
 - ・ 複雑な地質構造等が想定されることから、調査の実施にあたっては、地層地質の把握、地盤変位等、周辺状況を確認しながら慎重に進めることが必要である。
 - ・ ボーリング調査にあたっては、掘削時の空気、水の流出状況に注意し観測すること。
 - ・ 周辺井戸の調査を継続的に実施していくことが必要である。
- 対策工事を検討するにあたっては原因の究明が重要であり、工事の安全対策等を検討するためには、被災箇所周辺の水位及び水質の変化について継続的な調査が必要である。
- 複雑な地盤構造であるので工事を再開するためには、専門的知見を有する学識経験者の助言を得ることが有効である。

国道26号紀の川大橋橋梁拡幅工事周辺における 地下水噴出に対する緊急対策について

1) 緊急対策について

工事箇所周辺で発生している水と空気の噴出を抑止することから、以下の対策を実施する。

- ・ 水と空気が噴出している民家の古井戸直近に、水と空気を抜く為にボーリング(φ66mm)を実施する、17日午後より着手。ボーリングにあたっては、空気、水の状態に注意し観測する。
- ・ P13、P14ケーソン直近に、水と空気を抜く目的でボーリング(φ150mm、L=31.7m)を18日午後より施工する。
- ・ 複雑な地質構造等が想定されることから、地中に滞留した空気等の解放にあたっては、紀の川の堤防の法肩に観測用杭を設置し、平面変位及び鉛直変位を継続的に観測する。

2) 当面の調査について

対策工事を検討するにあたっては原因の究明が重要であり、工事の安全対策等を検討するため以下の調査を実施する。

- ・ 被害箇所周辺の地下水調査(水位、水質等)を継続して実施(一部既着手)
- ・ 工事箇所から水及び空気が噴出している井戸を結ぶ間で、地質構造を把握するための調査ボーリング(φ66mm、L=25m)を実施する。(2箇所程度を予定)

3) 対策検討会の設置

原因究明、工事再開へ向けた対策等を検討いただく、学識経験者を含む対策検討会を設置予定。